

## 資質・能力を育むために ～「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」～

### これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された新学習指導要領<sup>7</sup>では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童生徒です。「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」が目的ではなく、資質・能力を育むことが授業改善の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育てていく必要性があります。

7【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校新学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

このようなことから、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度までの、A問題【主として知識】、B問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成31年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」がそれぞれ分けて育成するのではなく、活用の学習を通して知識が定着することも考えられます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら育成していきます。新学習指導要領では、基礎・基本的な知識をいかに活用させて「生きて働く知識」を培うかが求められています。

## 調査結果 小学校 国語

令和3年度 調査結果 小学校【国語】							
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>59</b>	<b>-5.7</b>	<b>63</b>	<b>64.7</b>	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	<b>59.8</b>	<b>-8.5</b>	<b>63.8</b>	<b>68.3</b>
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断 力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	<b>75.1</b>	<b>-2.7</b>	<b>78.9</b>	<b>77.8</b>
		B 書くこと	2	<b>56.3</b>	<b>-4.4</b>	<b>58.3</b>	<b>60.7</b>
		C 読むこと	3	<b>42.3</b>	<b>-4.9</b>	<b>48.7</b>	<b>47.2</b>

平成31年度 調査結果 小学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>55</b>	<b>-8.8</b>	<b>61</b>	<b>63.8</b>
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	<b>63.7</b>	<b>-8.6</b>	<b>69.1</b>	<b>72.3</b>
	書くこと	3	<b>46.7</b>	<b>-7.8</b>	<b>52.7</b>	<b>54.5</b>
	読むこと	3	<b>76.5</b>	<b>-5.2</b>	<b>80.3</b>	<b>81.7</b>
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	<b>42.8</b>	<b>-10.7</b>	<b>49.2</b>	<b>53.5</b>

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

## 調査結果 中学校 国語

令和3年度 調査結果 中学校 【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>65</b>	<b>0.4</b>	<b>65</b>	<b>64.6</b>
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.4	<b>1.6</b>	79.8	79.8
	書くこと	3	55.8	-1.3	57.2	57.1
	読むこと	4	49.0	<b>0.5</b>	49.6	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.0	-1.1	75.6	75.1

※斑点の網掛けは全国平均正答率を上回ったもの

平成31年度 調査結果 中学校 【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		10	<b>68</b>	-4.8	<b>73</b>	<b>72.8</b>
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	64.9	-5.3	70.6	70.2
	書くこと	2	78.3	-4.3	82.0	82.6
	読むこと	3	67.7	-4.5	72.5	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	62.4	-5.3	67.0	67.7

## 調査結果 小学校 算数

令和3年度 調査結果 小学校 【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>67</b>	-3.2	<b>70</b>	<b>70.2</b>
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	58.7	-4.4	62.2	63.1
	B 図形	3	50.6	-7.3	57.3	57.9
	C 測定	3	72.2	-2.6	74.7	74.8
	C 変化と関係	3	72.1	-3.8	76.6	75.9
	D データの活用	5	75.2	-0.8	77.1	76.0

平成31年度 調査結果 小学校 【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>60</b>	-6.6	<b>67</b>	<b>66.6</b>
学習指導要領の領域等	数と計算	7	54.9	-8.3	63.3	63.2
	量と測定	3	44.7	-8.2	54.1	52.9
	図形	2	73.9	-2.8	76.6	76.7
	数量関係	7	60.5	-7.8	68.7	68.3

## 調査結果 中学校 数学

令和3年度 調査結果 中学校 【数学】						
分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>56</b>	-1.2	<b>58</b>	<b>57.2</b>
学習指導要領の領域	数と式	5	<b>63.7</b>	-1.2	<b>65.9</b>	<b>64.9</b>
	図形	4	<b>51.2</b>	-0.2	<b>54.0</b>	<b>51.4</b>
	関数	3	<b>55.8</b>	-0.6	<b>56.4</b>	<b>56.4</b>
	資料の活用	4	<b>51.0</b>	-2.8	<b>53.4</b>	<b>53.8</b>

平成31年度 調査結果 中学校 【数学】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>55</b>	-4.8	<b>59</b>	<b>59.8</b>
学習指導要領の領域	数と式	5	<b>55.9</b>	-7.9	<b>64.1</b>	<b>63.8</b>
	図形	4	<b>68.7</b>	-3.7	<b>73.5</b>	<b>72.4</b>
	関数	3	<b>33.6</b>	-7.2	<b>39.4</b>	<b>40.8</b>
	資料の活用	4	<b>54.6</b>	-1.7	<b>54.7</b>	<b>56.3</b>

本町の公立小・中学校の平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】 全国の平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

〈出典〉 令和3年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

## 【小学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の差 全国 正答率と	無解答率
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	○			63.3	-1.5	1.7
3二	丸山さんの【文章の下書き】の ----- 部分を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する			○	49.4	-7.2	11.7

## 【中学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の差 全国 正答率と	無解答率
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	○			22.9	-1.9	0.0
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える			○	76.3	1.8	4.9
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			○	68.0	-3.9	8.8

## 問題 小学校 3二

丸山さんの【文章の下書き】の ----- 部分を、【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。

この問題の趣旨は「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」です。意見を述べる文章を書くとは、理由や事例を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを述べることであり、その際、読み手に自分の考えが相手に伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが重要となります。本設問においては、異なる立場の考え方を取り上げ、それに対する自分の考えを明確にできるようにすることが大切です。

## 問題 中学校 4 四

事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。

この問題の趣旨は、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」です。伝えたいことを読み手にわかりやすく伝えるためには、目的や意図に応じて説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりすることなどに留意して書くことが大事です。

これまで「書くこと」が課題として挙げられてきました。今年度、小学校・中学校ともに国語科全体の正答率については大きく改善が見られる中ではありますが、令和3年度においても、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に課題があると言えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くこととなります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、自分の考えを持つ、そして書くという流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していくことです。

ただ、文字を写すといったことではなく、そこには「思考（考えを持つ）」を「表現（書く）」することが求められています。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。また、子どもたちの「考え」の基盤は、自らの生活経験が大部分を占めます。学校教育活動をはじめとして、家庭や地域における体験活動や生活経験を大切に、児童・生徒が自分の考えや世界観を広げられるようにすることが大事となります。

## ◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

## 【小学校 算数】

設問番号	「数と計算」	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	(%) 正答率	との 全国 正答率	無 解答 率
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる			○	61.0	-1.5	0.7
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる		○		79.7	-3.3	1.5
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるとき一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる		○		48.4	-7.1	1.5
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる			○	45.7	-5.8	12.7

## 【中学校 数学】

設問番号	数と式	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との差 全国正答率	無解答率
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる		○		71.6	-5.5	0.3
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる		○		66.8	-4.5	7.7
6 (1)	四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		83.5	-0.4	2.3
6 (2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	65.7	3.9	9.5
6 (3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる			○	30.7	0.4	20.4

## 問題 小学校4 (2)

8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。

この問題の趣旨は、「商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる」です。この問題では、数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができることを目標としています。

## 問題 小学校4 (3)

30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。

また、この問題の趣旨は、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。」です。ここでは、小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することを目標としています。

算数の学習では、数量の関係に着目し、式に表して計算したり、計算を日常生活に生かしたりすることが重要です。また、計算結果の意味について、日常生活の場面に即して判断したり、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考えたりすることも重要です。本設問においては、いろいろな除法の問題について振り返り、割り進む場面で式に表して計算したり、小数を用いた倍の意味を考えたりする文脈が設定されています。ただ単純に計算をして答えを求めることができることを目標としているのではなく、具体的な場面と式を関連付けて考えたり、説明したりできることが大事となってきます。計算をして正確な答えを求めることは大事ですが、その計算の過程において、なぜそのような答えに

なるのかを、図や式や言葉を用いて、周りの友達に説明ができることは大切なことです。

つまり、日々の算数の授業の場面においても、言葉と式と図を関連付けて考えたり、説明をしたりする場を設定したりするなど、「生きて働く知識」となるように授業展開を工夫する必要性があります。

**問題 中学校6 (2)**

四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する。

この問題は、これまで課題としてきた「数と式」における記述式問題となりますが、全国平均正答率を上回る結果となりました。

この問題の趣旨は、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」です。ここでは、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに問題の条件を変えるなどして、発展的に考察することが大切です。

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、) 統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数・数学の授業においても「考えを持つことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要性があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって算数・数学についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。

国語、算数(数学)の分析を通して、今年度、全体的にこれまでの学習への取組の成果が結果として表れたところが多く見られます。しかし、引き続きの課題として挙げられるものとして「自分の考えをまとめて、書く」については寒川の児童・生徒が苦手としているところが見受けられます。

## ◇ 各教科における記述式問題について

## 【小学校 国語】

設問番号	説明の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と差	無解答率
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける			○	28.3	-6.1	0.5
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する			○	25.8	-3.9	6.5
3二	丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する			○	49.4	-7.2	11.7

## 【中学校 国語】

設問番号	説明の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と差	無解答率
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える			○	57.7	0.6	1.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える			○	76.3	1.8	4.9
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			○	24.0	3.5	20.6
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			○	68.0	-3.9	8.8

## 【小学校 算数】

設問番号	説明の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と差	無解答率
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる			○	61.0	-1.5	0.7
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる			○	42.2	-3.8	2.7
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる			○	48.9	-3.1	9.7
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる			○	45.7	-5.8	12.7

## 【中学校 数学】

設問番号	数と式	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との全国正答率	無解答率
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	65.7	3.9	9.5
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる			○	30.7	0.4	20.4
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	26.8	-0.9	15.2
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	5.2	-5.9	25.8
9(1)	四角形ABCDEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる			○	44.8	0.5	3.6

## ◇ 「考え」を発信する場や機会をもつために

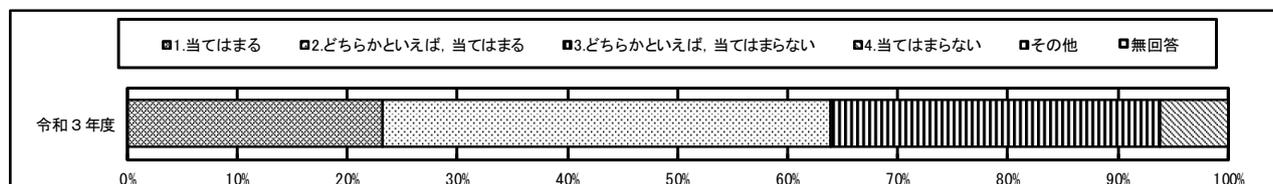
上記の結果は、小学校・中学校における国語と算数（数学）の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「考えること」つまり「自分の考えをまとめる」ことが大切です。今年度の結果から、これまでの取組の成果が多く見られますが、無回答率も含めて分析すると、記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということが言えます。

以下の今年度新規質問項目の小学校【児童質問紙（49）「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか】及び中学校【生徒質問紙（49）「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか】では、高い割合の児童・生徒が当てはまると回答しています。特に中学校では全国よりも高い値を示しています。このことから、授業の中で自分の考えを書いたり、話したりする活動がしっかりと位置づけられていることが分かります。児童・生徒自らが考え、発信できる場や機会が保障され、それに向かい児童・生徒自らが工夫する姿が結果から見られます。

新学習指導要領解説 総則編では、「言語能力を支える語彙の段階的な獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」とあります。寒川町の小・中学校では、言語活動について国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるところです。引き続きこのような取組の目的を教員と児童・生徒で共有し、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現することの大切さを実感できる学習を充実させていくことが大切です。

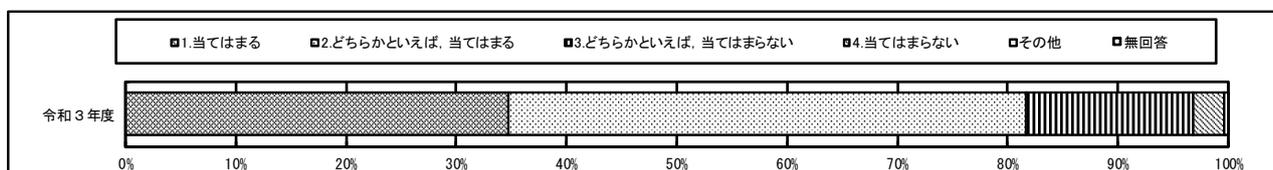
## 【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(49)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	23.3	40.7	29.8	6.2			64.0		0.0	0.0



## 【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(49)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	34.8	46.9	15.2	2.8			81.7		0.0	0.3

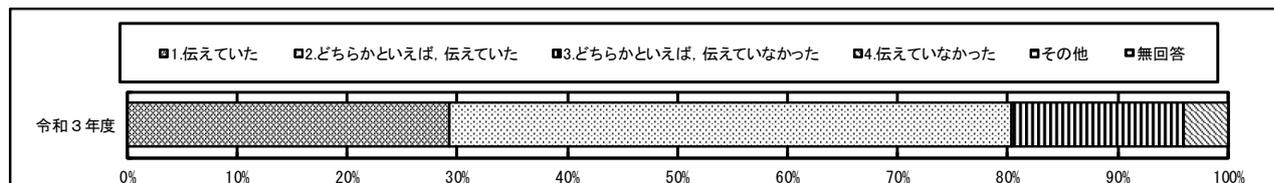


以下の項目では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関する調査結果です。「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現のためには、対話的な学びの過程（他者との交流）が授業を構成する上で、大事となってきます。自分の考えを持ち、友達と交流をする。交流する場がなければ対話は生まれません。

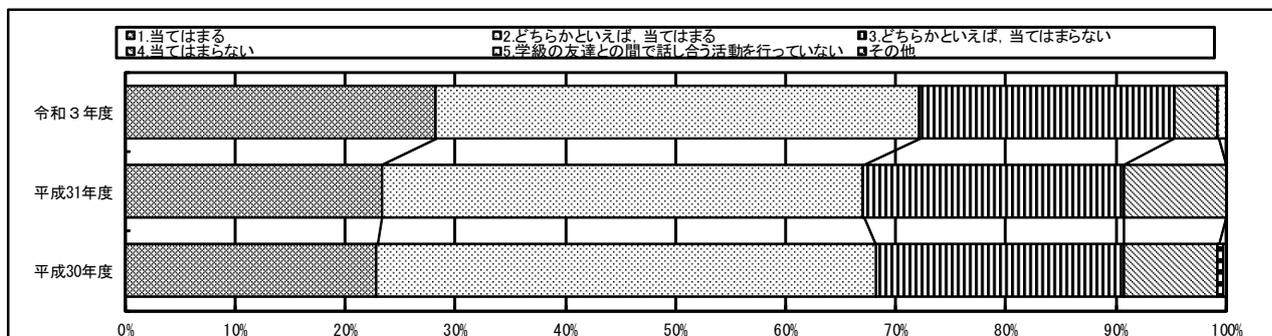
話し合いに向けた取り組みについては、児童・生徒質問紙【質問番号（31）、（37）、（40）、（41）、（42）】にあります。

## 【小学校児童質問紙】

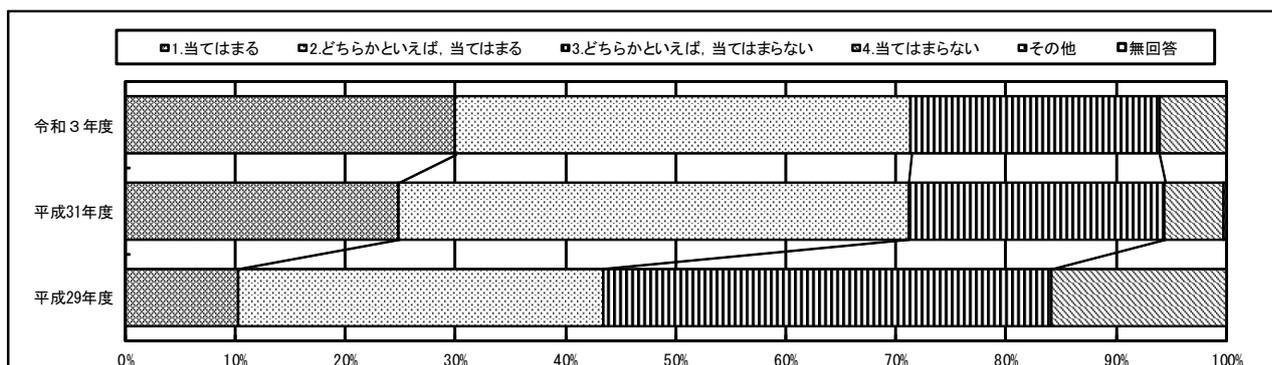
質問番号	質問事項									
(31)	5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	伝えていた(1+2)		その他	無回答
令和3年度	29.3	51.1	15.6	4.0			80.4		0.0	0.0



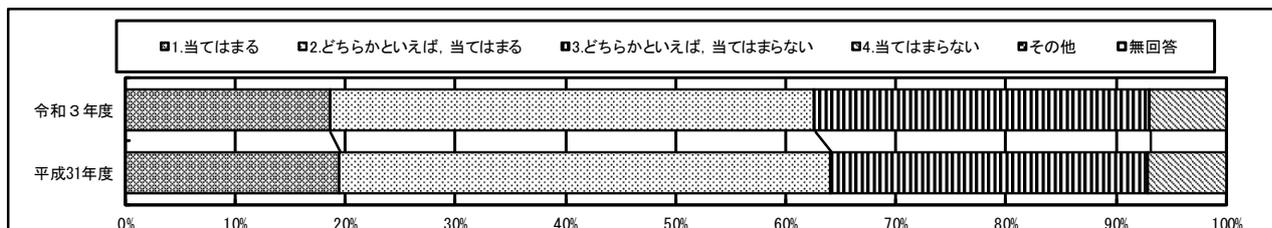
質問番号	質問事項									
(37)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	28.3	43.9	23.1	4.0	0.7		72.2		0.0	0.0
平成31年度	23.4	43.7	23.7	9.3			67.1		0.0	0.0
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2



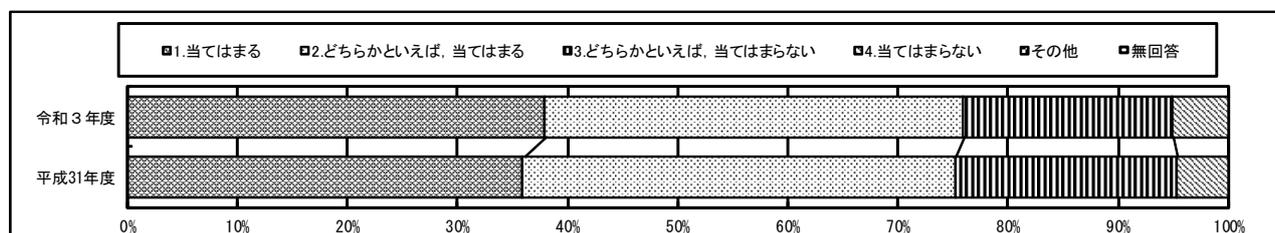
質問番号	質問事項									
(40)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	30.0	41.4	22.6	6.0			71.4		0.0	0.0
平成31年度	24.9	46.3	23.2	5.4			71.2		0.2	0.0
平成29年度	10.3	33.1	40.8	15.8			43.4		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	18.6	43.9	30.5	6.9			62.5		0.0	0.0
平成31年度	19.5	44.6	28.8	7.1			64.1		0.0	0.0

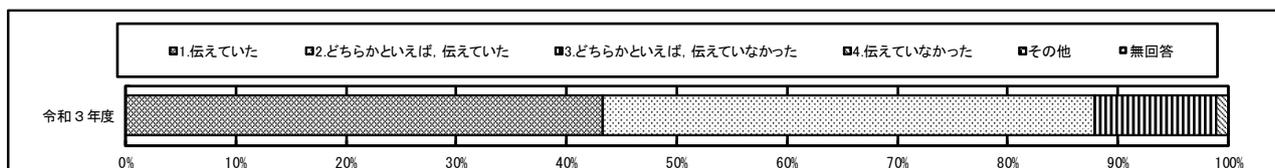


質問番号	質問事項									
(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	38.0	38.0	19.1	5.0			76.0		0.0	0.0
平成31年度	35.9	39.3	20.2	4.6			75.2		0.0	0.0

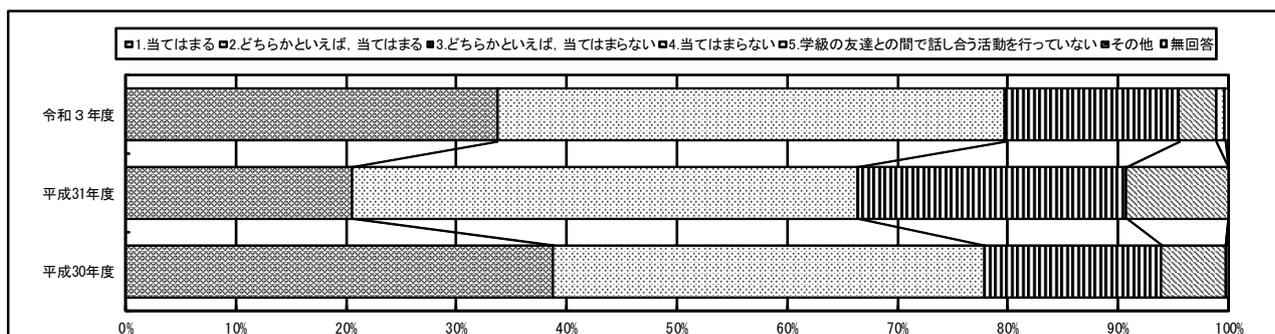


## 【中学校生徒質問紙】

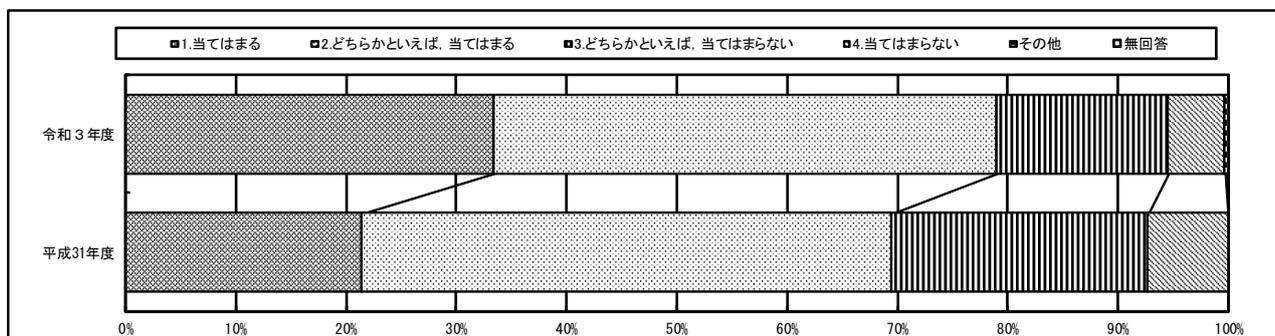
質問番号	質問事項									
(31)	1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達への考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	伝えていた(1+2)		その他	無回答
令和3年度	43.3	44.6	11.1	1.0			87.9		0.0	0.0



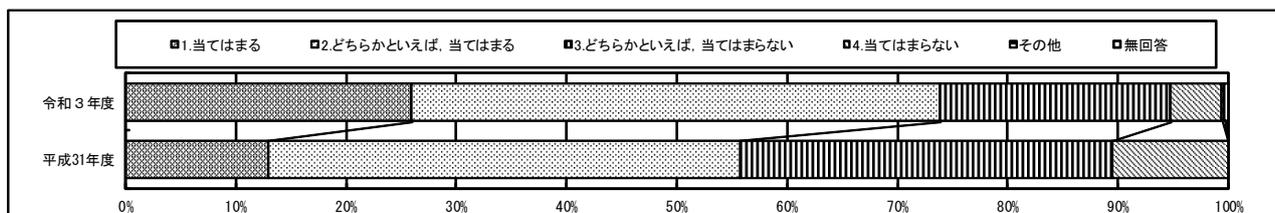
質問番号	質問事項									
(37)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	33.8	46.1	15.7	3.4	0.8		79.9		0.0	0.3
平成31年度	20.6	45.9	24.3	9.2			66.5		0.0	0.0
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8			77.8		0.0	0.2



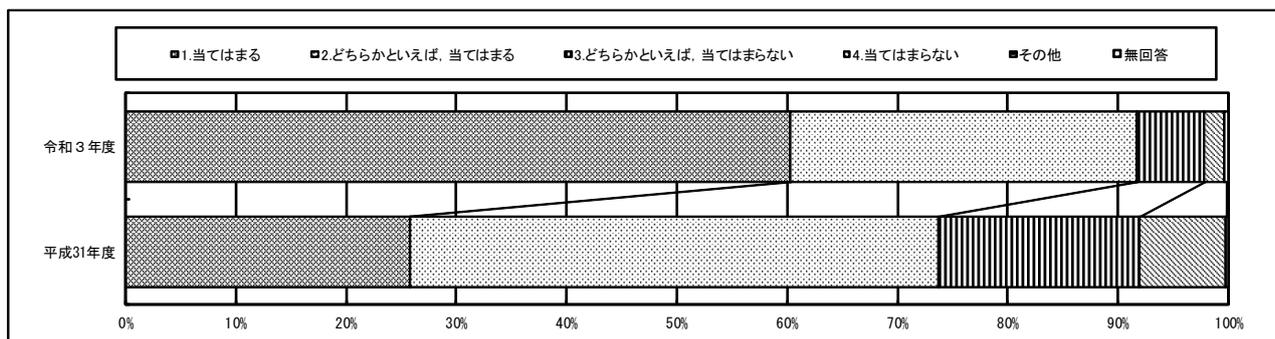
質問番号	質問事項									
(40)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	33.5	45.6	15.5	5.2			79.1		0.3	0.0
平成31年度	21.5	48.0	23.2	7.3			69.5		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	26.0	47.9	20.9	4.6			73.9		0.3	0.3
平成31年度	13.0	42.8	33.8	10.4			55.8		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	60.3	31.4	6.2	1.8			91.7		0.0	0.3
平成31年度	25.8	48.0	18.2	7.8			73.8		0.0	0.2



児童・生徒質問紙の結果から、これまでと比べて、小学校・中学校ともに大きく割合が上がっていることが見てとれます。学級活動における話し合いが活発に行われている様子が伺えます。

また、児童・生徒質問紙【質問番号(42)】で示されているように、「特別の教科 道徳」の授業において考え、議論する道徳の授業が展開されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れ

られている様子が伝わってきます。まさに、新学習指導要領に向けて取り組んでいる、授業改善の視点のひとつの表れである「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

さらに、児童・生徒質問紙【質問番号(31)「5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業で、学級の友達と(生徒)との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか】から8割強の児童・生徒が肯定的に回答しています。このことから、教師だけでなく児童・生徒も主体的で対話的で深い学びという、新しい学習スタイルが少しずつ馴染み、当たり前前として浸透してきている姿が見て取ることができます。コロナ禍における学校生活が続く中、グループでの言語活動などを控えてきた影響もありますが、今後も感染対策を十分に講じながら、多様な手法を検討しながら、様々な教科、時間、場面を通じて、主体的・対話的で深い学びを推進していく必要があります。

また、以下に、国語に関する児童・生徒質問紙【質問番号(44)「国語の勉強は大切だと思いますか】、算数(数学)に関する児童・生徒質問紙【質問番号(53)「算数(数学)の勉強は大切だと思いますか】についての結果を示しています。

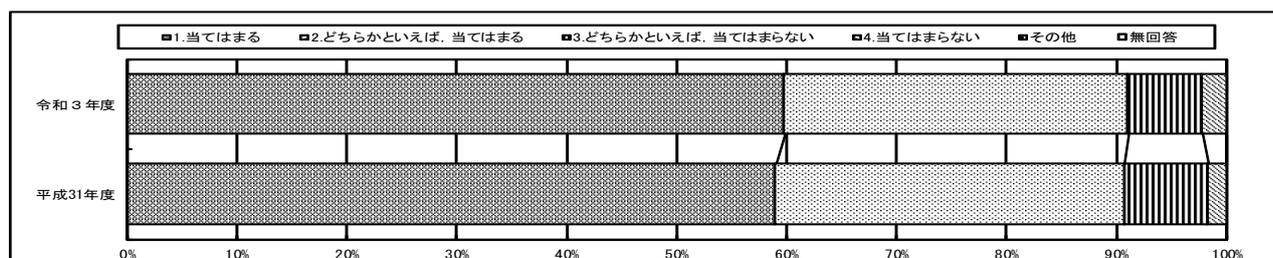
### [国語に関する質問紙調査]

#### 【小学校】

質問番号	質問事項									
(44)	国語の勉強は大切だと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	65.3	28.3	5.0	1.5			93.6		0.0	0.0
平成31年度	64.4	29.3	4.1	2.2			93.7		0.0	0.0

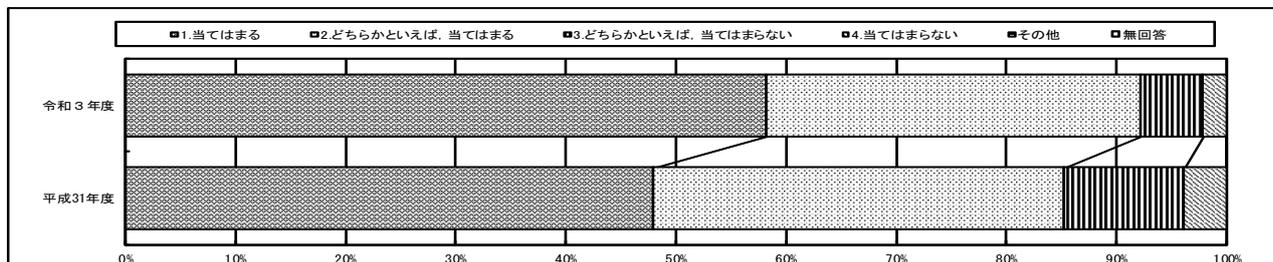


質問番号	質問事項									
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	59.8	31.3	6.7	2.2			91.1		0.0	0.0
平成31年度	59.0	31.7	7.6	1.7			90.7		0.0	0.0

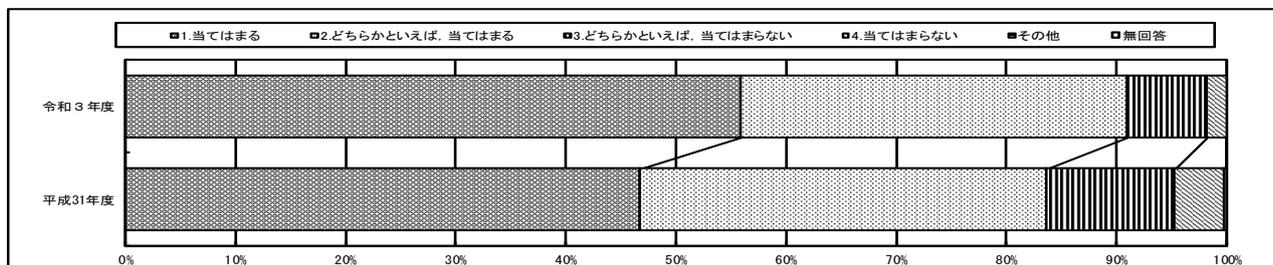


【中学校】

質問番号	質問事項									
(44)	国語の勉強は大切だと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	58.2	34.0	5.7	2.1			92.2		0.0	0.0
平成31年度	48.0	37.4	10.9	3.8			85.4		0.0	0.0



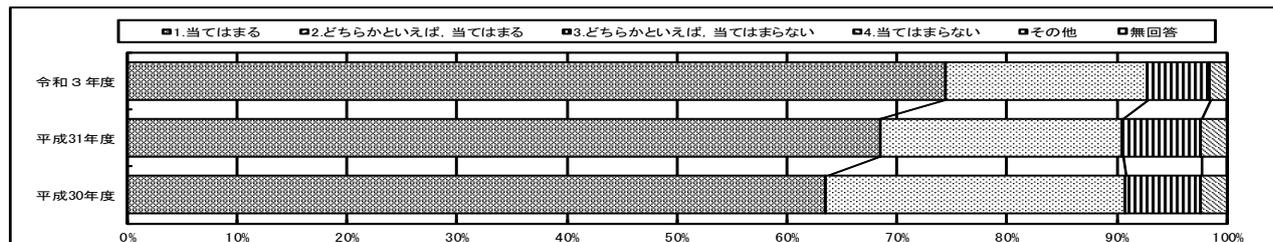
質問番号	質問事項									
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	55.9	35.1	7.2	1.8			91.0		0.0	0.0
平成31年度	46.8	36.9	11.6	4.5			83.7		0.0	0.2



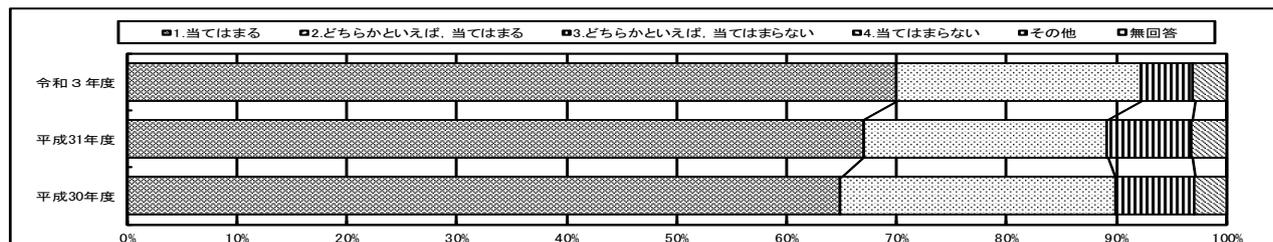
〔算数（数学）に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項									
(53)	算数の勉強は大切だと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	74.4	18.4	5.7	1.5			92.8		0.0	0.0
平成31年度	68.5	22.0	7.1	2.4			90.5		0.0	0.0
平成30年度	63.5	27.3	6.8	2.4			90.8		0.0	0.0

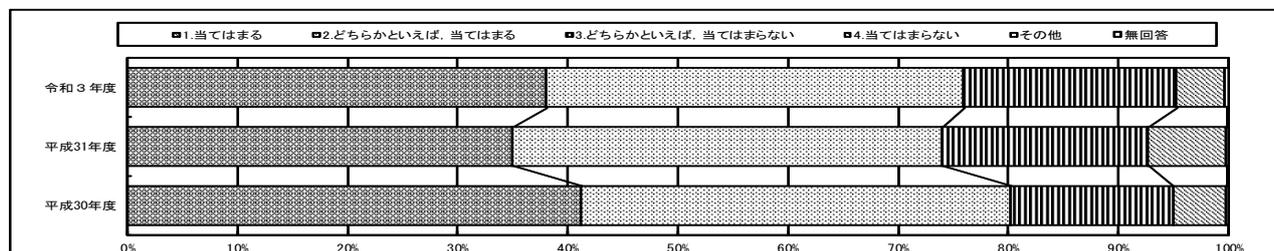


質問番号	質問事項									
(55)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	70.0	22.3	4.7	3.0			92.3		0.0	0.0
平成31年度	67.1	22.2	7.6	3.2			89.3		0.0	0.0
平成30年度	65.0	25.1	7.1	2.9			90.1		0.0	0.0

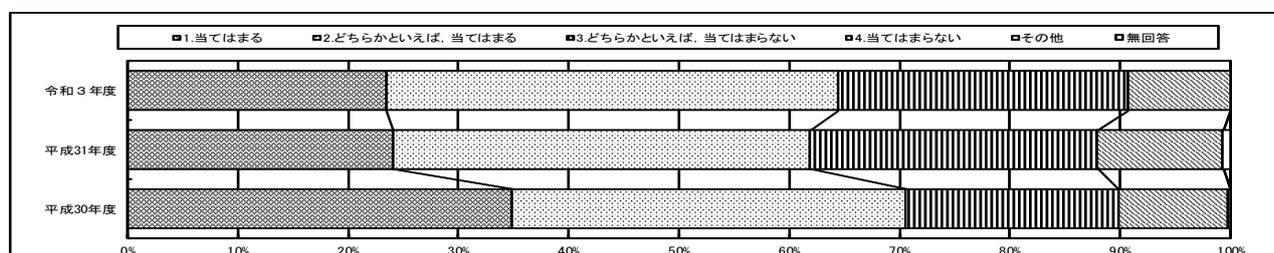


## 【中学校】

質問番号	質問事項									
(53)	数学の勉強は大切だと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	38.1	37.9	19.3	4.4			76.0		0.0	0.3
平成31年度	35.0	39.0	18.7	7.1			74.0		0.0	0.2
平成30年度	41.2	39.0	14.7	4.8			80.2		0.0	0.2



質問番号	質問事項									
(55)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる(1+2)		その他	無回答
令和3年度	23.5	41.0	26.3	9.3			64.5		0.0	0.0
平成31年度	24.1	37.8	26.0	11.3			61.9		0.0	0.7
平成30年度	34.9	35.7	19.3	9.9			70.6		0.0	0.2



小学校・中学校ともに教科の勉強が大切であることを認識し、また、【質問紙番号(46)、(55)】が示すように、その勉強が将来、社会に出たときに役に立つと認識していると多くの児童・生徒が感じていることが結果から伺えます。これが児童・生徒の学びに向かう力の大きな支えになっていると考えられます。また、児童・生徒質問紙【質問番号(45)、(54)「国語、算数(数学)授業の内容はよく分かりますか」】が示すように、町内の小・中学校では、児童・生徒の学習における「困難さ」を見取り、それに応じた指導や支援、いわゆる「授業のユニバーサルデザイン」についても校内研究等での実践を中心として、授業改善に熱心に取り組んでいます。児童・生徒が安心して生活できる落ち着いた環境の中で、すべての子どもにとって分かりやすい授業が展開されていることで、子どもたちが学習に対して意欲的に取り組み、自己肯定感が育まれている様子が質問紙の調査結果からも伝わってきます。今後も児童・生徒が安心感を持って、意欲的に取り組める授業づくりをすることによって、さらに児童・生徒の学びに向かう力が育成されることが考えられます。

町内小・中8校では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向けて、校内研究を中心に取り組んでいます。上記の結果より、小・中学校の校内研究において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいることが表れていると考えられます。新学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く(話す)という活動は、新学習指導要領における3つの柱の一つ

である「思考力・判断力・表現力」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育てていくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取り組みを進めていき、今後も自分の「考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことにより、子どもたちが自分の考えを持つことができるようになると思われま

す。また、小・中学校ともに、「理由を記述する」「考えをもつ」「説明する」など活用を問う問題を苦手とする傾向が見られました。授業においても、単に知識を問うだけではなく、ストーリーや文脈の中で、子どもたちが知識を活用できる授業づくりの場の設定が大事となってきます。つまり、知識と活用を分けるのではなく、相互に関連し合いながら育成していくことが大事です。

そのためには、「どんな子どもたちに育てたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むことが大切です。そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取り組みを継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。